



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol. 130
六甲山を市民のものに /
新野 幸次郎
2017年6月発行

第130回テーマ 六甲山を市民のものに

- 山と海をもつ神戸の特性
- 大洪水と大震災を
乗り越えた神戸
- 日本最大の森林都市を
目指して

実施日：平成29年6月24日（土）
午前10時～15時00分
場所：六甲山自然保護センター、
記念碑台・散歩道



講師：新野 幸次郎さんプロフィール
1925年鳥取県生まれ、(公財)神戸都市
問題研究所理事長、神戸大学長を経て、平
成3年同大学名誉教授。その間日本経済政
策学会会長の他、政府のいくつかの公職を
歴任。阪神・淡路大震災以降は、都市再生
戦略策定懇話会をはじめ、県と市の復興関
係の委員会座長・顧問などをつとめた。



開港当時の神戸 /
ザ・イラストレーテッド・ロンドン・
ニュース

自然体験に30名が参加

午前中の自然体験会には、イベ
ント清掃ひかひか隊など30名が
参加し、散歩道やまちっ子の森の
ササ刈りと、散歩道モニターの2
班に分かれて活動しました。

午後からのセミナーには38名
が出席し、熱心に聴講しました。



自然保護センター前で

92歳の神戸っ子で、六甲山の保全を重視

「森林の専門家でございませぬ。鳥取の生まれで、18歳
の時からこちらの学校に入り、神戸大学に進み、90歳にな
るまで神戸で過ごしておりますから、「神戸っ子」と言っ
てもおかしくない。その神戸で、都市問題研究所のような形で
勉強するようになった。神戸にとって一番大事な問題はいく
つかある。その中の一つとして、六甲山の経営の問題、保全
の問題というのは、本気で、私どもの生活の一部として考え
ていかなくちやならない」と、心境を語られました。

進取の神戸は、森林都市の保全も先駆する

冒頭、神戸市の特徴として、神戸開港150年で欧風文化
を開化する街という歴史を持っていると述べられました。進
取の気性に富んでおり、全国でも初の消費者問題や市民福祉
などユニークな試みをしています。宮崎市長の時代に「市民
のための行政」を考えて、公社で収益を上げてそれを施設の
運営や市内の景気改善に反映しました。市民福祉のための一
つとして「しあわせの村」を作って運営したことや、埋め立
て事業でも全国や海外からも注目を集めたと話されました。

1995年の阪神・淡路大震災は、初の「大都市直下型地震」
で日本災害史に特記される体験でした。昭和13年・42年
の大水害もあり、災害の街としても注目されました。大震災
の当時、個人のボランティアが活動し、ボランティア活動の
あり方を一変して、NPO法案につながりました。

このように、神戸は他の都市の見本になる新しい活動から、
大変な災害の象徴になる経験も持ったのです。このころ70
歳の新野さんは、震災復興のさまざまな会合のリーダー格と

して活躍し、現在も震災の教訓を東北や熊本に伝える活動を
続けておられます。

次いで、日本最大の森林
都市という側面を解説され
ました。森林の持つ7つの
機能を紹介され、六甲山の
明治35年以来の植林を踏
まえて、現在の神戸市の森
林整備戦略の展開に期待を
託されました。



新神戸駅北側での整備 /
神戸市建設局防犯部

日本の地形の特徴や国土の保全についての先人の言葉を
紹介され、「天災が日本人を素晴らしい国民にした」と強調
されました。終盤に、レガシー（遺産）とレージェンド（伝
説）を結びつけたストーリー（物語）を作る着想を紹介され、
神戸や六甲山に新たな関心を集める提案をされました。

より良い神戸を目指す努力を啓発された

神戸を70年にわたって見渡し、行政の施策にも関わって
こられた新野さんから、足元を見るだけでなく、鳥の目で神
戸や六甲山を見ることを触発されました。「次の世代により
良い神戸にしたい」というメッセージを受け、「目からウロ
コだ。まだ引退できない」と、エネルギーを注入されました。

詳しくは2ページをお読みください。

参加の感想 北嶋治夫さん

初めて六甲山の魅力に触れるセミナーに
参加することができた。六甲山の素晴らし
さ、大切さを知り、そして神戸に六甲山が
存在していることに一神戸市民として誇り
すら覚えたひと時だった。



100年余り昔はみげ山だった六甲山。大
勢の市民が努力した結果、今は緑豊かな山として蘇った。
先人たちの努力に敬意を払い、今後も市民が集い愛される
六甲山を後世に引き継ぎ、伝えていく使命感を抱いた有意
義な一日になった。有難うございました。

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：神戸県民センター、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】順不同

大阪コミュニティ財団（東洋ゴムグループ環境保護基金）、

コープこうべ環境基金、セブン-イレブン記念財団、

GGG国立・国定公園支援事業